

第1章 計画の基本的な考え方

1-1 計画策定の背景

「食」は、人にとって欠かすことのできない大切なことです。

近年、健康志向や食の安全安心に対する関心が高まる一方、食生活の乱れや生活習慣病の増加をはじめ、食に対する感謝の念や、伝統的な食文化の喪失など様々な問題が懸念されています。

このような問題に対処するため、国は、平成17年7月に「食育基本法」を制定、平成18年3月には「食育推進基本計画」を策定し、食育について、基本理念を明らかにしてその方向性を示し、国、地方公共団体及び国民の食育推進に関する取組を総合的かつ計画的に推進することとしました。

本市におきましても、市民の食生活をめぐる環境の変化に伴い、生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進することが重要な課題となっています。

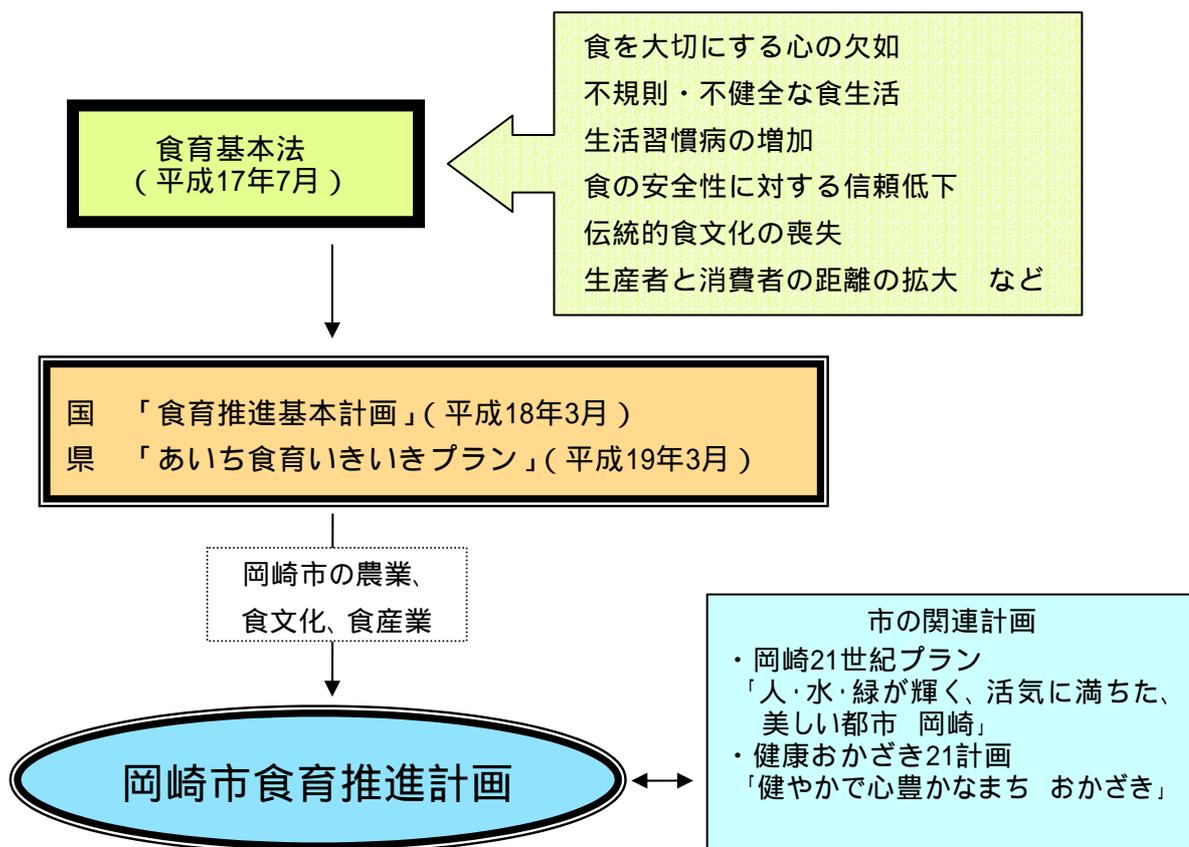
食育の推進においては、家庭、学校、地域、企業、関係団体、行政などがそれぞれの役割を明確に位置づけ、互いに連携を図ることが必要であり、食育を総合的かつ計画的に推進するための指針として、「食育基本法」、「食育推進基本計画」や、県の「あいち食育いきいきプラン」の趣旨をふまえ、「岡崎市食育推進計画」を策定します。

- 食育とは -

- ・ 生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの
- ・ 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること

(食育基本法より)

食育推進計画の背景と位置づけ



< 国・県の上位計画 >

食育推進基本計画(平成18年3月):平成18~22年度の5か年計画で、食育の基本方針と、子どもの朝食欠食なし、メタボリックシンドロームを認知している人の割合 80%以上など9つの数値目標を定めています。

あいち食育いきいきプラン(平成19年3月):平成19~22年度の4か年計画で、適正体重を維持する食事量を知っている人の割合 80%以上、肥満者の割合 小学校5年生で8.5%以下などの目標を定めています。

< 市の関連計画 >

岡崎市総合計画・岡崎21世紀プラン(平成12年3月):基本構想平成32年、基本計画平成22年を目標。「人・水・緑が輝く、活気に満ちた、美しい都市 岡崎」を将来像としています。

健康おかざき21計画(平成16年3月策定、19年3月改訂):「健やかで心豊かなまち」を目標とする、平成16~22年度の7か年計画で、「栄養・食生活」などの8つの分野で健康づくりを進めています。平成18年度に中間評価を行いました。

— 用語解説 —

メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)

内臓脂肪蓄積に加えて、脂質異常・高血圧・高血糖などの動脈硬化危険因子が同一者に重複して存在する病態をいいます。1つ1つの症状は深刻でなくても、これらの危険因子を3つ以上重複して持つと心筋梗塞などの発症の危険性が、危険因子が全くない人に比べて30倍以上も高くなるとされています。

1-2 計画の役割

本計画は、国の「食育推進基本計画」及び、県の「あいち食育いきいきプラン」を基本として、食育の推進にあたっての基本的な考え方や具体的な行動目標についてとりまとめたものです。

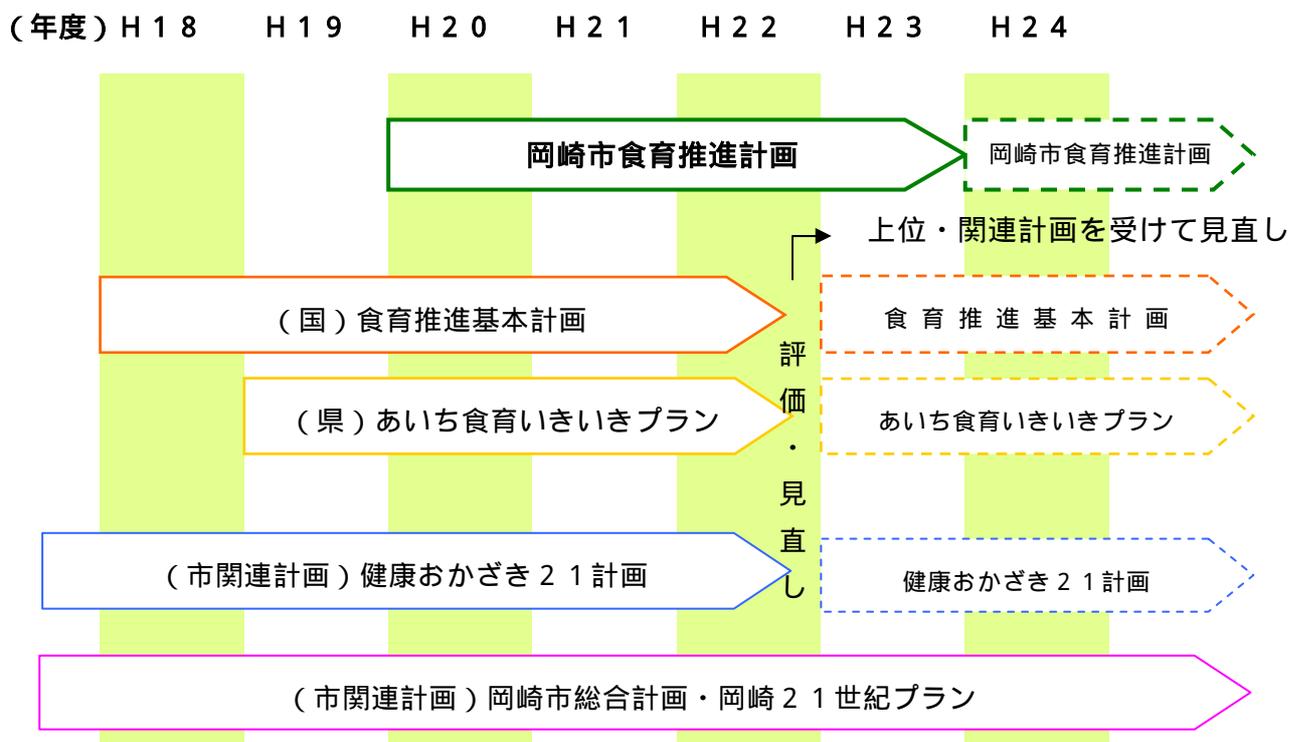
本計画を受けて、市民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育を総合的かつ計画的に推進します。

1-3 計画期間

本計画の期間は、平成20年度（2008年）から23年度（2011年）までの4年間とします。

国の「食育推進基本計画」及び、県の「あいち食育いきいきプラン」の計画期間が平成22年度までとなっているため、上位計画の評価・見直しを受けて、本計画の見直しを行います。

また、計画期間終了前であっても、状況の変化などが生じた場合には、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。



「食育」という言葉は、いつ頃から使われ始めたのでしょうか。
これについては例えば明治時代の2冊の書籍が挙げられています。

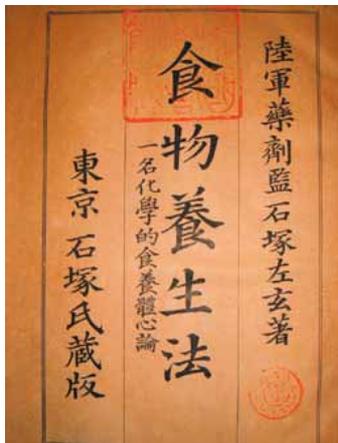
一冊目は、明治31年(1898年)に初版が発行された石塚左玄著「^{いしづかざげん}食物養生法^{しよくもつようせいほう}」です。同書においては、「食能(よ)く人を健にし弱にし、食能く人を聖にし暴にし、食能く人を雅にし俗にするのみならず、食能く人の心を軟化して質素静肅に勤勉し、食能く人の心を硬化して華美喧噪に断行するに至る」と述べるなど、食が人に及ぼす影響が大きいことを強調しています。

さらに、「嗚呼何ぞ学童を有する都会魚塩地の居住民は殊に家訓を厳にして躰育智育才育は即ち食育なりと観念せざるや」(学童を養育する人々はその家訓を厳しくして、体育、智育、才育はすなわち食育にあると考えるべきであるとの大意)とし、体育、智育、才育の基本となるものとして「食育」の重要性を述べています。

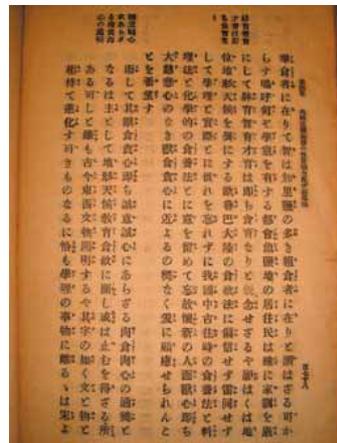
もう一冊は明治36年(1903年)に初版が発行された村井弦齋著「^{むらいげんさい}食道楽^{しよくどうらく}」です。同書においても、登場人物の会話の中で「智育と体育と徳育の三つは蛋白質と脂肪と澱粉のように程や加減を測って配合しなければならん。しかし先ず智育よりも体育よりも一番大切な食育の事を研究しないのは迂闊の至りだ」と述べており、智育よりも体育よりも「食育」が大切ではないかと指摘しています。

しかしながら、その後暫くの間「食育」という言葉が世間で広く使われることはなかったようです。

(石塚左玄著「食物養生法」内表紙) (石塚左玄著「食物養生法」本文)



(国立国会図書館所蔵)



(国立国会図書館所蔵)

資料：平成18年度版「食育白書」